

シーニックバイウェイ北海道 函館・大沼・噴火湾ルート

地域に暮らす人が主体となり、企業や行政と手をつなぎ、個性的で活力ある地域づくり・景観づくり・魅力ある観光空間づくりを行っている「シーニックバイウェイ北海道」が、本格的に始動して7年目を迎えました。

12月3日(土)、4日(日)に、全道12ルートの関係者が集い、各ルートの活動紹介・意見交流等を目的とした「シーニックバイウェイ北海道全道フォーラム2011」が開催されました。その様子を簡単にご紹介します。

【12月3日(土)】

◆第1部 全道12ルートからのプレゼンテーション

「私たちのルートの今、そして未来につなげる夢」をテーマに、各12ルートの地域の方々から5分程度で発表しました。函館・大沼・噴火湾ルートは、折谷久美子事務局長にプレゼンして頂きました。プレゼン要旨は、「当ルートは人とのつながりに重点をおいて活動を展開しており、新たな人との出会いが活動の幅を広げる」、「連携活動は環境を意識した活動を行っており、代表的は活動として"シーニックdeナイト"や"シーニックの森づくり事業"、"はこだて花かいどう"などが挙げられる」でした。





◆第2部 交流タイム

交流タイムでは、「ルート何でもベスト5」と題した各ルートごとのテーブルセッションが行われました。当ルートは、現在取り組んでいる連携活動である"はこだて花かいどう"・"シーニックdeナイト"・"シーニックの森づくり事業"・"シーニック清掃活動"・"ルートミーティング"を紹介しました。



◆第3部 学びと情報共有の時間 この時間では、まず「地域と組織の活性化のためにリーダーが行うべきこと」と題して、ウィルビジョン株式会社代表取締役社長である泉一也氏による講演があり、次に日本風景街道の状況についての報告がありました。

【12月4日(日)】

◆第1部 バイウェイコミュニティ会議



人と人とのつながりがルートの宝

全道12ルートが実施しているモニターツアーの活動事例報告と、プライムトラベル代表取締役社長である西村 紘一氏による「東アジアの旅人が求めているもの。そして北海道の可能性」、旅館澤の屋オーナーである澤功氏 による「地域全体で取り組む外国人観光客へのおもてなし」と題してお話し頂きました。

◆第2部 ワークショップ

ブランド化/商品開発、外国人観光客へのおもてなし、情報発信の各グループに分かれたワークショップが行われました。